国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

東日本大震災、あれから6年
JSTにおける震災復興支援

岩手県宮古市鍬ヶ崎　撮影：関博満（明星大学教授）

国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

東日本大震災

被災地域におけるJSTの取り組み

岩手県▶水産系への支援

水産系研究者の連携の構築

宮城県▶ものづくり

産学連携のさらなる強化

福島県▶人材育成

『サイエンスキャラバン』の開催

国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

サイエンスキャラバン2016

『サイエンスキャラバン』は科学教育を通じて理科教育の振興、
さらには故郷への想いを持つ人材育成に寄与する。

●エネルギー教育

福島大学 佐藤理夫教授

『福島の再生エネルギーが日本を救う』

→「再生可能エネルギー先駆けの地・ふくしま」への、理解・誇り

●科学教育（人間教育）

(株)テクノインテグレーション 出川通代表

『江戸時代のイノベーター:平賀源内の発想と行動』

→イノベーションを起こしたいという希望

●環境教育

京都大学 渡邉正巳名誉教授

『放射線の健康影響の正しい理解』

→正しい知識に裏付けされた安心・安全の理解

“福島で生まれ”、“福島で育ち”、“福島で生きる”。

福島県の復興・再生へ

サイエンスキャラバン2016
新聞掲載記事・アンケート

国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

第3回 2017/1/27

放射線 正しく理解を

郡山女大付高生向け講座

渡辺氏（左）から放射線について学んだサイエンスキャラバン

復興へ意識高める

郡山女子大付属高生を対象にした国立研究開発法人科学技術振興機構の「サイエンスキャラバン2016」第三回講座は二十七日、郡山市の郡山女子大建学記念講堂で行われた。

全校生徒、教職員が受講した。京都大名誉教授で京都大放射線生物研究センター特任教授の渡辺正己氏が「放射線の健康影響の正しい理解」の演題で講演した。東京電力福島第一原発事故後の放射線量の推移など科学的データを示し、十分な知識を持つことの大切さや風評払拭（ふっしょく）など復興に向け志を持って行動することを呼び掛けた。

生徒を代表し樋口あや子さん（一年）が「放射線のことを冷静な目で見て考え、復興の力になるよう努力していく」と謝辞を述べた。

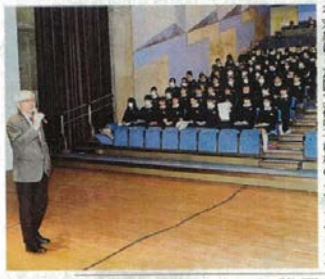
サイエンスキャラバンは昨年十二月から三回講座で行われた。サイエンスキャラバンに関する問い合わせは科学技術振興機構 電話03（5214）7281へ。

（記事はすべて福島民報転写）

第2回 2017/1/11

工夫や知恵 大切に

郡山女大付高でサイエンス講座



平賀源内題材に

意識の持ち方など解説

郡山女子大付属高生を対象にした国立研究開発法人科学技術振興機構の「サイエンスキャラバン2016」第二回講座は十一日、郡山市の郡山女子大建学記念講堂で行われた。

生徒、教職員合わせて約四百人が受講した。テクノ・インテグレーション社長の出川通氏が「江戸時代のイノベーター平賀源内に学ぶ日本のイノベーション紹介」の演題で講演した。

出川氏は東北大学院修了。企業向けのコンサルティングや研修、実践マネジメントなどを行っている。知識や知恵を生かす意識の大切さを強調し、平賀源内とイノベーターの視点などを話した。

サイエンスキャラバンは三回講座で最終回は二十七日に「放射線の健康影響」をテーマに開く。サイエンスキャラバンに関する問い合わせは科学技術振興機構 電話03（5214）7281へ。

第1回 2016/12/22

郡女大付属高でキャラバン開講

科学技術振興機構

国立研究開発法人科学技術振興機構の「サイエンスキャラバン2016」は、郡山市の郡山女子大建学記念講堂で開講し、同大付属高生が再生可能エネルギーに理解を深めた。復興支援人材育成事業として初めて実施した。

生徒、教職員合わせて約四百人が受講した。三回の企画で初回は佐藤理夫福島大共生理工学類産業システム工学教授が「福島の再生可能エネルギーが日本を救う」の演題で講演した。

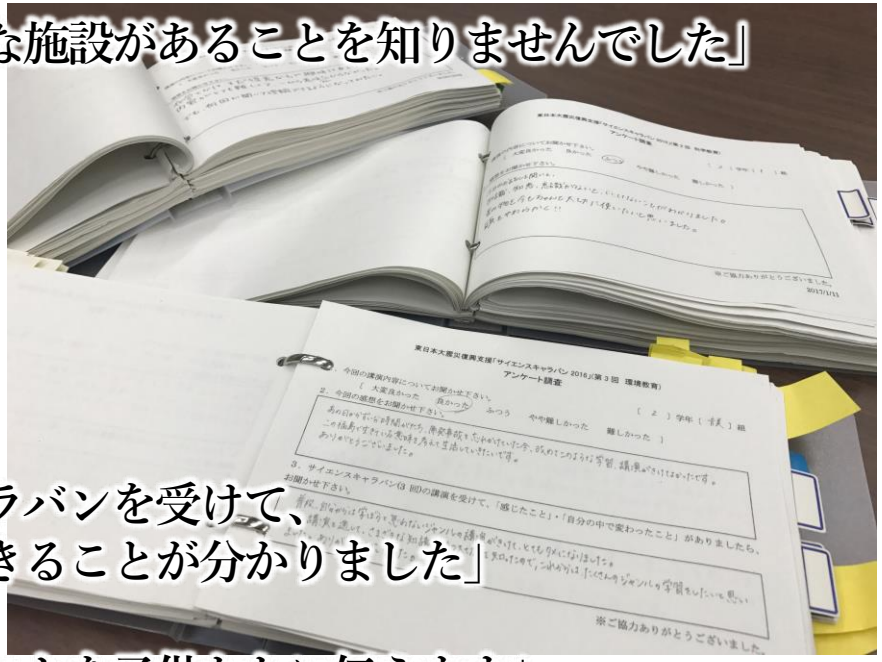
二回目は来年一月十一日に「江戸時代のイノベーター平賀源内」、三回目は一月二十七日に「放射線の健康影響」をテーマに開く。サイエンスキャラバンに関する問い合わせは科学技術振興機構 電話03（5214）7281へ。

再生可能エネルギーについて講演する佐藤教授（左）

サイエンスキャラバン2016
高校生の反応～心に残るアンケートの声

国立研究開発法人 科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

「福島県にこんなにもエネルギーについて色んな施設があることを知りませんでした」



「理系へ進むことを決心しました」

「知識量と質の違いで
生き方・考え方が大きく変わってくるから、
もっと増やせるようにしたい」

「数学や理科が苦手でしたが、サイエンスキャラバンを受けて、
自分でもちゃんと考えて勉強すれば、理解できることが分かりました」

「保育士、幼稚園の先生になって、今回学んだことを子供たちに伝えます」

「福島のイメージが悪くなっているけれど、
再生エネルギーが復興の一つの力になってくれればいいと思いました」

「最初は復興などに興味はありませんでした。
でもこのキャラバンを通じて、復興の役に立つ人材にならなければならないと思いました」

「生まれ育った『福島でこどもを産み』『福島で育てたい』と、思う気持ちになりました」